

## 歴史と文化を語り継ぐ

### 富良野市 郷土研究会



▲他の地域の歴史について学ぶ研修会に参加する会のメンバー

**幅** 広い視点で、富良野市の歴史や文化などを研究しながら、後世に語り継ぐための活動をしている富良野市郷土研究会（野嶋重克会長）。昭和38年に富良野町史の編さんに協力するため、各地域において造り出し、深い人たちが集まり、設立されてから約50年間にわたり活動。現在20人の会員が所属し、主に他の市町村の歴史を学ぶための博物

館・美術館めぐりや研修会などを行っています。

会では、昭和43年に発行された『富良野市史第1巻』をはじめ、翌年の第2巻、平成6年には第3巻の編さん事業に協力するなど、その功績が認められ、平成5年に文化奨励賞、平成23年には文化功労賞を受賞しています。

市史の編さん作業に協力する一方で、「市民のみならず、地域の歴史や文化などをもっと親しんでもらいたい」という思いから、昭和54年に『富良野こぼれ話』、昭和59年には『続富良野こぼれ話』を発行。また開基90周年に合わせて『富良野市歴史写真集』、平成16年には人物事典を発行するなど、執筆や編さん作業を行っています。「昔のことを話すことはできるけど、文章にするのは難しいものです。昔のことなどを知っている人に、会員がそれぞれ何度も聞き取りながら作業しました」と振り返る杉浦重信副会長。「本や写真で郷土の歴史などを記録しておけば、それを見たり聞いたりすることで、もう一度故郷を見直すきっかけになればうれ

しいです」とこれまで制作にかかわってきた思いを話します。

また、昨年の11月にはこぼれ話の第3弾として『ふらの博物誌』を発行し、改めて郷土の歴史などに触れる機会を作っています。「昔のことを知っている人が少なくなってきたのが現状です。歴史などを調べたりするのは大変な作業。個人ではなかなかできないことでもあるので、研究会はなくてはならないものだと感じています」と野嶋会長は話します。

今年、会の設立50周年に向けて、記念誌や式典などを企画している富良野市郷土研究会。これからも永遠に刻まれていく故郷の歴史を、後世に残すために活動しています。



▲研究会が発行してきた数々の本。ふらの博物誌など、生涯学習センターで購入することができます